

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです  
基本ほど難しいものはないよ。でもそこで差が着くんだぞ。

クレジット百貨店である丸井の二代目に就き、流通業界きっての高収益企業に育てた青井忠雄名誉会長とはじめてお会いした時のことです。成長する人間は、どこに違いがあるのか? 「優秀な人の欠点。佐藤さんわかりますか? 優秀な人ほど簡単な基本を軽く見てしまうんです。気づいていながら」だから、仮に百貨店の入口でクリンリネスに一分のマイナスでもあれば、その店舗の実情などわかってしまうと断言するのです。お客様に対して、何が失礼で何が大切なのか? その基本すら軽くみている人間が、よい店舗をつくれるはずがないのですよ。笑顔ではあるが、物事の本質を捉えた発言にいつも凄味を感じさせる青井名誉会長との対話には、緊張感すら覚えたものです。船井先生に、青井名誉会長との会話を何気なく話したときに言われました。「基本ほど難しいものはないよ。つい、できていると錯覚してしまうからね」「でもな、基本を繰り返して身につける。そして、いつでも基本に忠実に生きることが大切なんだ。そこで差がつくんだぞ」入社式の日と言われたこと。メモをとれ、見送れ、手紙を書けの三カ条。言われたときは、何と簡単なことかと思いました。“成長のコツだぞ!”とと言われて確かに手帳に書き留めた。こんなことならできるとも思ったのですが……。継続はできていない。ふと気づく自分がいます。「平凡なこと、当たり前のことを、非凡にやり抜く人間。そんな人間が成功していくんだよ。平凡なことほど、やり抜くのは難しいものだ」確かにそうです。丸井の青井名誉会長の言うように、心のどこかで軽くみてしまうからでしょう。“凡事徹底”と言いますが、“凡”のなかにこそ真実があり、徹底のなかにその人の人間性が浮かび上がってくるのだと思います。繰り返し思うのです。確かに、人間の成功とは能力ではなく、性格から導かれるということ。そして何より、当たり前のことを当たり前にする性格が大切だと、教えられます。(中略) 次の瞬間、もっと驚きました。先生が私の部署の先輩たちの机の引き出しを開けては閉めながら歩き回っているではありませんか。「うん。机の引き出しを見ると、その人のいまの精神状態や仕事ぶりがわかるんだよ」見てごらん、と先生は手招きします。Aさんの机は、見事だろ。きっちり整理整頓してある。最近、好調なはずだね。Bさんは……。ちょっとひどいね、忙しすぎるかな。Cさんは乱雑に見えるけど、すべてのペンのペン先が同一方向だし、ボールペンとサインペンは分けてあるだろ……。「机一つ見ても、その人の今がわかるものだよ。ルールがあるんだ。整理整頓、始末をする、美的である。そんな配慮ができていれば、仕事もできているんだよ」

ある進学塾のコンサルティング現場で、塾長に子供を優秀に育てる簡単な方法を教えてもらったことがあります。小学校に入学したとき、母親はせめて三週間は子供の帰宅時に家にいてあげること。そして、帰ってきた子供に、「勉強しなさい。予習はしたの?」などと決して言うてはいけないというのです。「今日は何が一番楽しかったの。お母さんに教えて」そう尋ねるのです。子供の答えに怒ってはいけませんよ。そう体育が楽しかったのねと、優しく答えます。「算数は? どうなの?」などと言わないこと。子供はすぐに遊びにいきたい。いかせればよい、そう塾長は言います。ただし……。「ランドセルの中身を全部出して、机に並べてからいってらっしゃい」と、この一点だけはやらせませす。寝るときに、一つの言葉をかけてあげます。「明日、またお母さんに何が楽しかったか教えてね」子供にとって、振り返るクセづけ、整理整頓のクセづけ、そして明日への楽しい予感。それだけを教えれば、おのずと勉強好きの子が育つのです。それが、塾長先生の意見でした。正しいと思います。そう言えばあの晩。船井先生は、わざわざ大阪・中之島のオフィスに立ち寄ってくれたのだなと、いま気づきます。若者へのクセづけのために。

成長する人間は、どこに違いがあるのか? と言っていますか?

(

)